

はじめに

2018年度は当会として転換点となった年度であった。というのも、2017年8月から毎月開催していた定例会を一旦休止し、今後の会の在り方や持続可能な運営のかたちを再検討したからである。その結果おかげさまで、名刺交換会、認知症や小規模多機能の事例検討、病院-在宅の垂直連携、伊達市多職種勉強会と共催、市民フェスティバルと盛況に活動をすることができた。また、活動内容を考える上で、当会の立ち位置や強みを見直す良い機会をいただいたのではないかなと思っている。当会の目的は以下の3点である。

- ・ 在宅ケアに関わる多職種や関係者と顔の見える関係をつくる
- ・ 在宅ケア推進にあたり、関係者・住民の知識の増進をはかり、相談できる場をつくる
- ・ 在宅ケアを広め、住民のニーズをくみ取る場をつくる

一言で言えば「在宅ケアに関わる方の点を、線にして、面を作るための場」なのである。そして、この作られた面はぐるぐる図の様々な療養場所にいる患者・利用者・家族を支えるために何かしら役立ったり、日頃の業務にプラスになる必要があろう。また、当会を通じてできる人と人の繋がりが、日々の仕事で生じるモヤモヤの解決とまではいかなくとも、軽減に少しでも寄与することを願ってやまない。なぜなら、当会を立ち上げたきっかけの1つである、入院している患者さんがもっとスムーズに退院して在宅療養を受けられなかったのか…という私自身のモヤモヤを少しずつではあるが、軽くなっていると思うからである。最後に運営メンバー・幹事・事務局の皆さん、そして、何より当会の活動に参加いただいている皆さん、1年間どうもありがとうございました。引き続き一緒に、少しずつ在宅ケアを支える面を大きくしていければと思っております。

西いぶり在宅ケア連絡会
会長 佐藤弘太郎

月	形式(参加実績)	テーマ・内容
5月	講演・名刺交換 (106名) 室蘭 ※1	「名刺交換会、現場から見た医療介護同時改定」 新年度を迎え職場内での異動、転職などで環境が変わった人もいないのでしょうか…。今回、少し久しぶりの定例会開催となりますが、新年度第1回目は西いぶり地域の専門職の皆さんが集まる機会を活用し『名刺交換会』としました。 また、その前段と致しまして、医療と介護の制度改訂の影響や、見えてきた今後の方向性など、在宅ケアに関するを中心に現場で活躍の専門職のみなさんからお話を頂きます。普段、他専門職の改訂に関する影響などを聞く機会は少ないかと思い企画しました。是非ご参加下さい！
7月	講演・グループワーク (41名) 室蘭 ※2	「困った事例の対処法～医療の現場から～認知症の方への告知・権利・意思決定について」 今月は、困った事例の対処法～医療の現場から～ということで認知症の方への「告知」「権利」「自己決定」について事例検討会を企画致しました。 改めて、認知症高齢者の方への支援について考えたいと思います。認知症高齢者の方に病名告知はしていますか？していませんか？「安心・安全」を優先するあまり、本人の自己決定、希望をないがしろにしていることはありませんか？意識しているつもりでも、実は本人が置いてけぼりになりがちな認知症の方への支援。普段、当たり前の様に触れているが、意外と困った事例になりがちな今回のテーマを改めて、「告知」「権利」「自己決定」をキーワードに、皆さんで対処法を考えて行きましょう。
11月	市民フォーラム 室蘭(モルエ室蘭) 一般市民100名程度 (アンケート回答者27名)	西いぶり在宅ケアフェスティバル 私たちは学びながら地域の在宅ケアを推進してゆくことを目的とした団体です。この度、在宅ケアについて一般市民の皆様にご広く知って頂く機会として『楽しみながら』『気軽に参加できる』内容でのフェスティバルを企画しました。皆さんとともに知識を学び、理解を広めたいと考えております。どうぞお気軽にご参加ください！
11月	講演・グループワーク (44名) 伊達 ※3	「介護力不足と不安を乗り越えて在宅復帰を実現したケース」 夜勤のある仕事をしている妻は、在宅復帰を模索する中で、自分たちと同じような状況で在宅復帰したケースがないかどうか探したが、どこにも見つかる事が出来ず、多くの人からも在宅復帰は無理と言われた。しかし思案の末、脳出血後遺症で寝たきりの夫を在宅介護する道を選択した。在宅復帰する前と後の妻の思いの変遷(迷い、不安、葛藤、やってみてわかったこと)や在宅生活をする上での心構え、介護の工夫などについて妻自身に語って頂く。また、担当ケアマネには、支援の実際や苦労したこと、感じたこと、今後の課題などについて話して頂く。
1月	グループワーク (28名) 室蘭※4	「困った事例の対処法～在宅支援の現場から～小規模多機能居宅介護からの事例」 それぞれ生活スタイルは違うものですが、現行の居宅介護支援では制度上様々な制約があり、色々工夫をし、サービスをたくさん導入しても、課題が解決しないことがあるのではないのでしょうか…サービスとサービスの隙間を埋める事ができずに、その人の生活の課題に支援が届かず、専門職として悩むこともあると思います。今回は、起床時間がまちまちで、食事の時間や1日の過ごし方が日によって違うため、毎日の支援の時間がバラバラになってしまう。内服確認も1日複数回、デイサービスの利用も難しい人への支援について、みなさんとグループワークを通じて考えてみたいと思います。
3月	講演・グループワーク (52名) 室蘭 ※5	「葛藤？～病院側と在宅側のはざまで～」 今年度1年間在宅ケア連絡会では、連携の場面で発生する「葛藤」についてみなさんからのご意見を伺ってきました。その中から「病院と在宅の間の葛藤」というテーマを取り上げたいと思っております。皆さんの抱えている葛藤を多職種の意見交換で多角的に向き合い、より良い連携に結びつけられるヒントをつかんで頂くことを目指した企画です。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

※1 講師:エーザイ(株)堂前 氏 ケア連絡会担当幹事

※2 講師:特定医療法人社団千寿会 三愛病院 精神保健福祉士 竹内 亮平 氏

※3 共催:西いぶり在宅ケア連絡会・伊達市多職種勉強会

※4 講師:株式会社ライフアップ 小規模多機能居宅介護 小多機 癒庵 高嶋 活哉 氏

※5 担当:西いぶり在宅ケア連絡会ケア連レビュー班

講師:社会医療法人 母恋 日鋼記念病院 MSW 山本 亮 氏

総合病院 伊達赤十字病院 入退院支援センター看護師長 那須 睦子 氏

平成30年度 定例会 職種別 参加者数

※11月の在宅ケアフェスティバルは除外

ラベル	職種	5月	7月	11月	1月	3月	延べ
1	①. 医師	5	2	1	1	1	10
2	②. 歯科医師	0	0	0		0	0
3	③. 保健師	7	2	1	1	2	13
4	④. 看護師	6	1	1	3	4	15
5	⑤. ケアマネジャー	19	13	14	2	13	61
6	⑥. 社会福祉士	7	2	3	2	2	16
7	⑦. 栄養士	3	0	1	2	1	7
8	⑧. PT	7	1	2	3	6	19
9	⑨. OT	6	1	0		2	9
10	⑩. ST	1	0	0	1	1	3
11	⑪. MSW	2	1	1	2	5	11
12	⑫. PSW	10	3	0	2	0	15
13	⑬. 薬剤師	14	9	6	5	7	41
14	⑭. 歯科衛生士	3	0	1	1	0	5
15	⑮. 介護福祉士	5	2	1	1	3	12
16	⑯. ヘルパー	0	0	1		0	1
17	⑰. 生活相談員	1	0	3		0	4
18	⑱. 柔道整復師	0	0	0		0	0
19	⑲. 福祉用具	0	0	3		0	3
20	⑳. 医事関係者	1	1	0		0	2
21	㉑. その他()	9	3	5	2	5	24
合計		106	41	44	28	52	271

第60回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ ①「名刺交換会」

②「現場から見た医療介護同時改訂」

日時:5月28日(月) 18:30~20:30

受付:18:00~ (事前申込不要 当日参加OK!)

会場:むろらん広域センタービル AB会議室

室蘭市海岸町1丁目4番1号

参加費: 500円

＜内容＞ *名刺をお持ちの方は名刺をお持ちください。
名刺をお持ちで無い方でもご参加頂けます。



西いぶり在宅ケア連絡会

18:30~18:45 開会・連絡会説明・参加者自己紹介

18:45~19:45 点数改訂シンポジウム:各専門職

(病院、診療所、歯科、薬局、包括、
ケアマネ、訪リハ、全体)

19:45~20:15 名刺交換会

20:15~20:30 総評、アンケート・意見回収

20:30 閉会



今月のポイント!

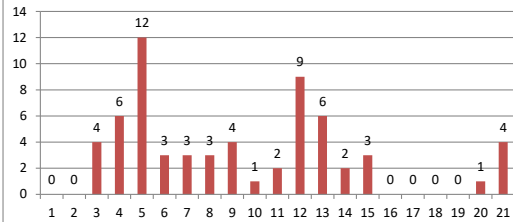
新年度を迎え職場内での異動、転職などで環境が変わった人もいないでしょうか…。今回、少し久しぶりの定例会開催となりますが、新年度第1回目は西いぶり地域の専門職の皆さんが集まる機会を活用し『名刺交換会』としました。

また、その前段と致しまして、医療と介護の制度改訂の影響や、見えてきた今後の方向性など、在宅ケアに関することを中心に現場で活躍の専門職のみなさんからお話頂きます。普段、他専門職の改訂に関する影響などを聞く機会は少ないかと思い企画しました。是非ご参加下さい!

【後援団体】

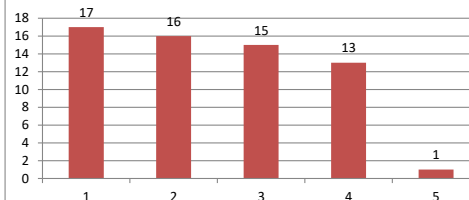
室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西いぶり訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会 (室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会)、北海道介護福祉士会日胆支部、北海道社会福祉士会日胆地区支部

1. 所属等 職種



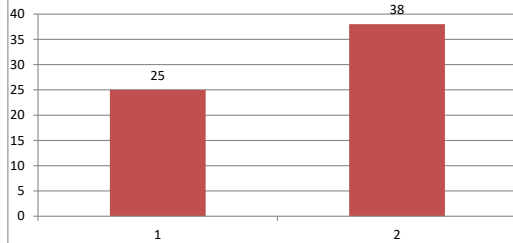
①. 医師 ②. 歯科医師 ③. 保健師 ④. 看護師 ⑤. ケアマネジャー ⑥. 社会福祉士 ⑦. 栄養士 ⑧. PT ⑨. OT ⑩. ST ⑪. MSW ⑫. PSW ⑬. 薬剤師 ⑭. 歯科衛生士 ⑮. 介護福祉士 ⑯. ヘルパー ⑰. 生活相

年齢



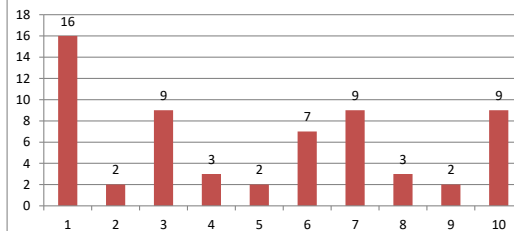
①. 20代 ②. 30代 ③. 40代 ④. 50代 ⑤. 60代以上

性別



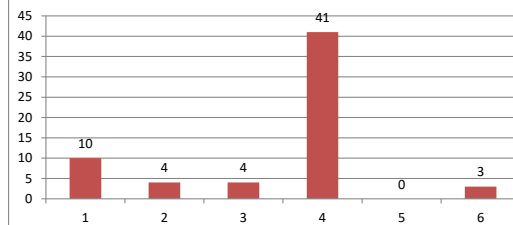
①男性 ②女性

所属機関を教えてください



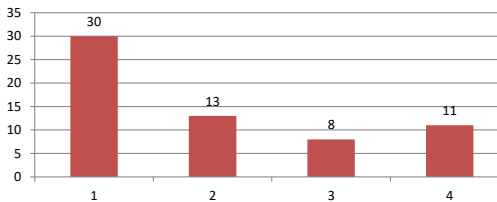
①病院 ②診療所 ③薬局 ④行政 ⑤施設 ⑥包括支援センター ⑦居宅介護支援事業所 ⑧通所系サービス ⑨訪問系サービス ⑩その他()

3. 立場(役職)



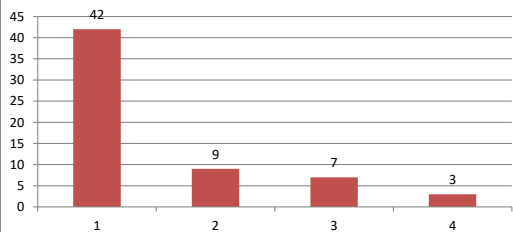
①. 管理者・施設長 ②. 部門長 ③. 課長 ④. 一般職員 ⑤. 契約

4. 職種経験年数①. 0～5年 ②6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上



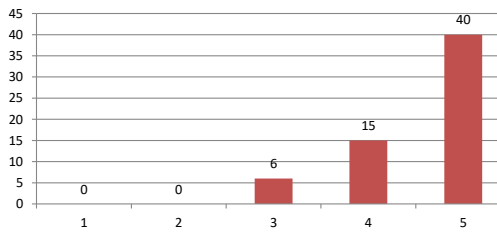
①. 0～5年 ②6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上

5. 職場経験年数



①. 0～5年 ②6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上

6. 今回の定例会について



③悪い～ ④. 良い

7. その他感想やご意見など

- ・顔つなぎの場として、とても大事な会だと思いました。
- ・様々な職種の方と関われる良い機会だと感じました。
- ・多職種の方との会話、挨拶は今後につながると思いました。
- ・参加者全体と交流できないくらいの参加者で、期待の大きさがあつたと思います。みんなで必要な情報や投げかけを！
- ・多職種の方々と知り合えて良かったです。
- ・障害福祉領域を高齢化が進み、制度手にも高齢福祉分野の領域の方との連携が進められています。障害領域のケアマネ及び相談支援事業所にも研修室内を出てもらえるとありがたいです。
- ・配布資料がいろいろとまとまっていますとありがたいです。
- ・たくさんの方と接する事ができたのでとても良かったです。
- ・久しぶりに参加出来て良かったです。
- ・日頃からお世話になっている方々と直接お会いできたので、連絡し易い環境が得られたと思います。
- ・今回は自己紹介しつかりできたので、誰がどの職種か把握して意見交換できました。
- ・多職種それぞれの研修も増えたので定例会の回数2ヶ月に1回というのは

7. その他感想やご意見など

- ・普段交流できない職種の方と交流出来ました。
- ・もっと細かくしりたかった。
- ・初参加でしたが、多職種のそれぞれの立場での意見(報酬改定に関するものなど)を聞いて参考になりました。
- ・前半のシンポジウムについてスライドがみづらくて説明も早口で内容が理解できなかった。企画側の問題だと思うので、伝える事を重視してはどうでしょうか？
- ・字が小さい
- ・現場第一線の皆さまと触れあえて貴重な体験となりました。
- ・多くの方と知り合うきっかけになった。薬剤関係が多く感じた。
- ・想定以上の人数で、名刺が足りなくなりました。
- ・イメージしづらかった。事例検討の方が参加しやすいお感じた。全ての職種が共感出来る内容だとありがたいです。
- ・それぞれの制度改正のポイントがわかってよかった。

【担当幹事】 高嶺 活哉

【今回のテーマ】

① 名刺交換会 ②現場から見た医療介護同時改訂

【タイムライン】

18：30～開演・参加者自己紹介

18：45～点数改訂シンポジウム「現場から見た医療介護同時改訂」

(エーザイ（株）同前 浩文氏)

当会幹事より、職種ごとに説明

病 院：日鋼記念病院・山本氏、JCHO 登別病院・佐藤氏

診療所：本輪西ファミリークリニック・篠原氏

歯 科：北海道歯科衛生士会室蘭支部・中村氏

薬 局：ひまわり薬局・佐藤氏

包 括：室蘭市地域包括支援センター憩・山下氏

ケアマネ：タカラサービス・山中氏

訪問リハ：製鉄記念病院訪問リハビリ・三政氏

訪問看護：勤医協室蘭訪問看護ステーション・長谷川氏

19：45～「名刺交換会」

20：15～総括、アンケート・意見回収

20：30～閉会

【報告者からのまとめ】

医療介護同時改訂の内容としては、在宅復帰に関する変更点が主であった。総論として今回の改正に伴い、特に医療（急性期・回復期・老健等）に対する国の考え方や視点を知ることができる内容であった。

担当幹事からは9名（領域）の報告であった。それぞれの領域における制度改正点とそれに伴う今後の課題についての説明であった。視点がそれぞれの専門性に分かれている反面、全体的にボリュームが大きすぎたとも感じた。

その後、名刺交換会を実施。広く関係者を知る機会となった。今後も継続してもよいと思われる企画であった。

第61回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ 困った事例の対処法～医療の現場から～
認知症の方への告知・権利・意思決定について

日時: 7月23日(月) 18:30～20:30

受付: 18:00～ (事前申込不要 当日参加OK!)

会場: むろらん広域センタービル3階 AB会議室

室蘭市海岸町1丁目4番1号

参加費: 500円 (定員を80名までとさせていただきます)

<内 容>

18:30～18:45 開会・参加者自己紹介

18:45～19:00 今回の事例・テーマ設定について

19:00～19:30 ディスカッション①

19:30～19:40 全体共有①

19:40～20:10 ディスカッション②

20:10～20:20 全体共有②

20:20～20:30 総評、アンケート・意見回収

20:30 閉会

 西いぶり在宅ケア連絡会



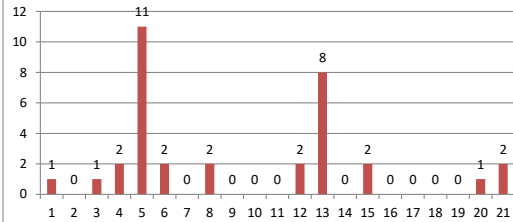
今月のポイント！

今月は、困った事例の対処法～医療の現場から～ということで、認知症の方への「告知」「権利」「自己決定」について事例検討会を企画致しました。改めて、認知症高齢者の方への支援について考えたいと思います。認知症高齢者の方に病名告知はしていますか？していませんか？「安心・安全」を優先するあまり、本人の自己決定、希望をないがしろにしていることはありませんか？意識しているつもりでも、実は本人が置いてけぼりになりがちな認知症の方への支援。普段、当たり前の様に関わっていますが、意外と困った事例になりがちな今回のテーマについて、「告知」「権利」「自己決定」をキーワードに、皆さんで対処法を考えて行きましょう。

【後援団体】

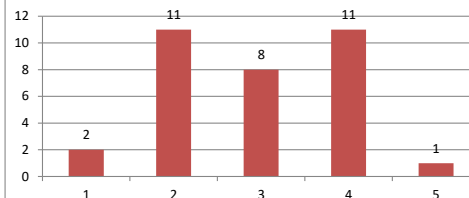
室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西いぶり訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部、北海道社会福祉士会日胆地区支部

1. 所属等 職種



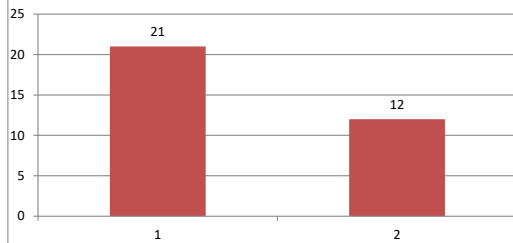
①. 医師 ②. 歯科医師 ③. 保健師 ④. 看護師 ⑤. ケアマネジャー ⑥. 社会福祉士 ⑦. 栄養士 ⑧. PT ⑨. OT ⑩. ST ⑪. MSW ⑫. PSW ⑬. 薬剤師 ⑭. 歯科衛生士 ⑮. 介護福祉士 ⑯. ヘルパー ⑰. 生活相

年齢



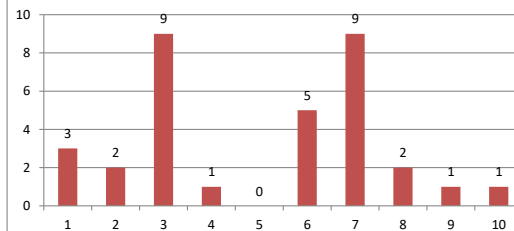
①. 20代 ②. 30代 ③. 40代 ④. 50代 ⑤. 60代以上

性別



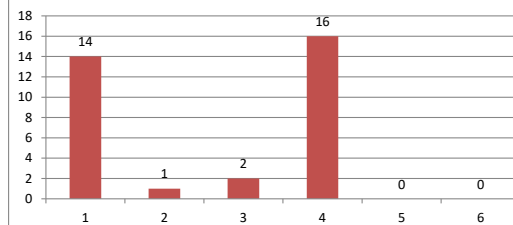
①男性 ②女性

所属機関を教えてください



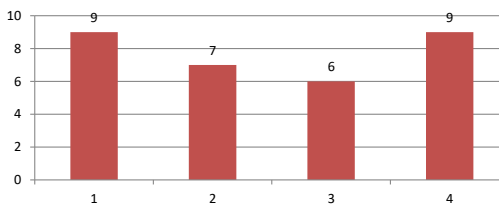
①病院 ②診療所 ③薬局 ④行政 ⑤施設 ⑥包括支援センター ⑦居宅介護支援事業所 ⑧通所系サービス ⑨訪問系サービス ⑩その他()

3. 立場(役職)



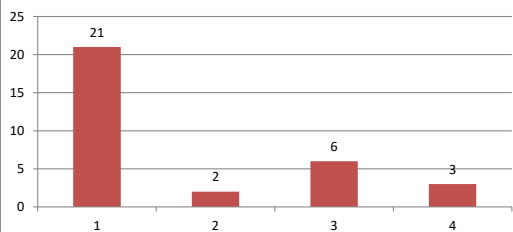
①. 管理者・施設長 ②. 部門長 ③. 課長 ④. 一般職員 ⑤. 契約

4. 職種経験年数①. 0～5年 ②6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上



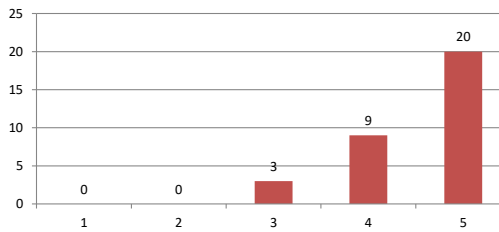
①. 0～5年 ②6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上

5. 職場経験年数



①. 0～5年 ②6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上

6. 今回の定例会について



①悪い～ ④. 良い

7. その他感想やご意見など

・ディスカッションは難しいと思っただけ、最終的にはうまく盛り上がって勉強になった。
・参考になりました。
・普段関わることの少ない職種の方と検討できてよかったです。
・様々な職種の方の視点を知る事ができるので勉強になります。
・テーマの？
・1日で終わらせるのではなく、3回に分けて等もう少し1つの話に時間をかけられたら良いのではないかとと思う？
・意見交換が有意義でした。
・普段から思っていることをテーマにあげていただきとても勉強になりました。ありがとうございました。
・様々な職種の話がけたのでよかったです。
・多職種(自分とは異なる)の経験や視点での意見が聞けて大変勉強になりました。
・多職種の経験共有はすばらしい機会だと思います。
・良い感じでフリートークできてよかった。
・多職種の方の意見が聞けて良かったです。
・自分の学んできたことは所属中の部署では共通理解であることがほとんど

7.その他感想やご意見など

・個性があるから面白い
・難しいテーマで、本日来てくれた方々は真剣に考えてくれたと思いました。人数が少なくてもむしろ良かった内容だと思いました。

【担当幹事】 竹内 亮平

【今回の目的】

困った事例の対処法～医療の現場から～という内容で、認知症の方への「告知」「権利」「自己決定」について事例検討会を企画。改めて、認知症高齢者の方への支援について考える。認知症高齢者の方に病名告知はしているのか？していないのか？「安心・安全」を優先するあまり、本人の自己決定や希望をないがしろにしていないか？実際のところ意識をしているつもりでも、本人が置いてけぼりになりがちな認知症の方への支援について、普段当たり前の様に触れているが、意外と困っている事例について、「告知」「権利」「自己決定」をキーワードに、みんなで対処法を考えたい。

【タイムライン】

18：30～18：45 開会・参加者自己紹介
18：45～19：00 今回の事例・テーマ設定について
19：00～19：30 ディスカッション①
19：30～19：40 全体共有①
19：40～20：10 ディスカッション②
20：10～20：20 全体共有②
20：20～20：30 総評、アンケート・意見回収
20：30 閉会

【参加者からの声】

- ・ ディスカッションは難しいと思ったけど、最終的にはうまく盛り上がって勉強になった。
- ・ 普段関わることの少ない職種の方と検討できてよかった。
- ・ 様々な職種の方の視点を知る事ができたので勉強になった。
- ・ 1日で終わらせるのではなく、3回に分けて等、もう少し1つの話に時間をかけられたら良いのではないかと感じた。
- ・ 意見交換が有意義だった。
- ・ 普段から思っていることをテーマにあげていただきとても勉強になった。
- ・ 様々な職種の話が聞けたのでよかったです。
- ・ 多職種(自分とは異なる)の経験や視点での意見が聞けて大変勉強になった。

- ・多職種の経験共有はすばらしい機会と思った。
- ・良い感じでフリートークできてよかった。
- ・多職種の方の意見が聞けて良かった。
- ・自分の学んできたことは、所属中の部署では共通理解であることがほとんどだったのだが、グループワークを経てそうではないことに改めて気づいた。
- ・個別性があるから面白い。
- ・難しいテーマで、本日来てくれた方々は真剣に考えてくれていた。人数が少なくてむしろ良かった内容だと感じた。

【報告者からのまとめ】

答えがあるテーマではなく、通常業務の中でも、個別性のある中で柔軟に判断しなければならない内容であったので、ディスカッションを深めるにも難しい内容だったかと思う。だが、それぞれのグループからも活発な意見があり、また通常業務の中でもよくある内容だが、煩雑とした業務の中、埋もれがちなテーマであるので、改めて立ち止まり考えるきっかけになったのではないかと思う。これを機に、個々人の担当ケースにおいても、少しでも認知症高齢者の権利について考えが深まれば良いと考える。

第62回 西いぶり在宅ケア連絡会

第3回伊達市多職種勉強会

テーマ

「介護力不足と不安を乗り越えて在宅復帰を実現したケース」

日時:11月19日(月) 18:30~20:00

受付:18:00~ (事前申込不要 当日参加OK!)

会場:伊達市黄金地区コミュニティーセンターはまなす館

伊達市北黄金65番地1(黄金小学校隣) ☎0142-24-2111

*駐車場の台数が限られておりますので、出来るだけお乗り合わせでお越しください。

参加費: 無料

<内 容>

18:30~18:35 開会:事務局

あいさつ及び勉強会目的:岡本先生

18:35~19:10 事例報告:①吉田ケアマネ ②患者様の奥様

19:10~19:35 グループワーク

19:35~19:55 発表

19:55~20:00 まとめのコメント:岡本先生

閉会



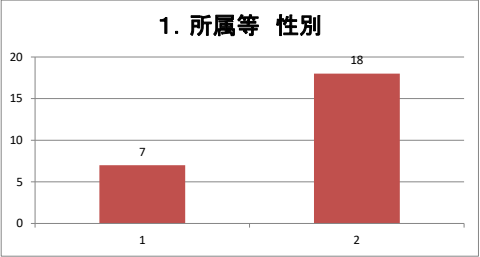
 西いぶり在宅ケア連絡会

今月のポイント! 伊達市多職種勉強会との共催!

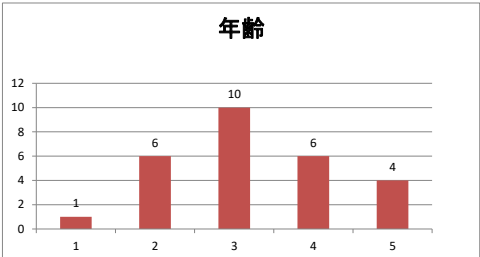
夜勤のある仕事をしている妻は、在宅復帰を模索する中で、自分たちと同じような状況で在宅復帰したケースがないかどうか探したが、どこにも見つける事が出来ず、多くの人からも在宅復帰は無理と言われた。しかし思案の末、脳出血後遺症で寝たきりの夫を在宅介護する道を選択した。在宅復帰する前と後の妻の思いの変遷(迷い、不安、葛藤、やってみてわかったこと)や在宅生活をする上での心構え、介護の工夫などについて妻自身に語って頂く。また、担当ケアマネには、支援の実際や苦労したこと、感じたこと、今後の課題などについて話して頂きます。

【後援団体】

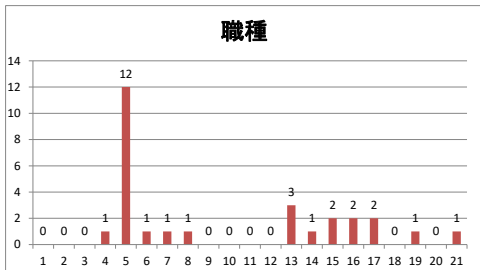
室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西胆振訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会(室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会)、北海道介護福祉士会日胆支部



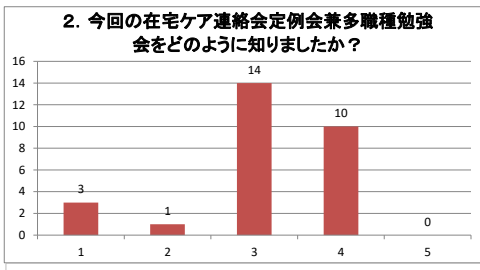
①男性 ②女性



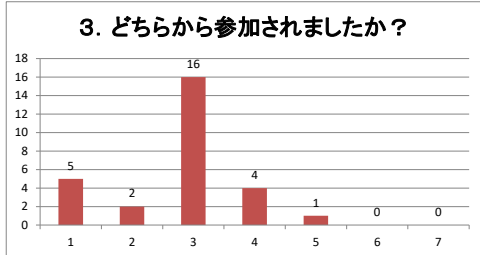
①. 20代 ②. 30代 ③. 40代 ④. 50代 ⑤. 60代以上



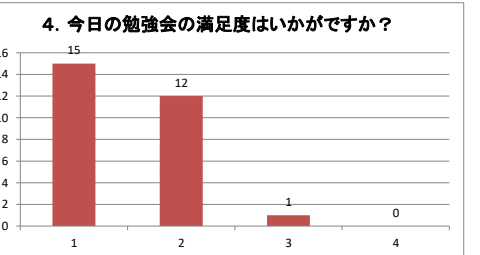
①. 医師 ②. 歯科医師 ③. 保健師 ④. 看護師 ⑤. ケアマネジャー ⑥. 社会福祉士 ⑦. 栄養士 ⑧. PT ⑨. OT ⑩. ST ⑪. MSW ⑫. PSW ⑬. 薬剤師 ⑭. 歯科衛生士 ⑮. 介護福祉士 ⑯. ヘルパー ⑰. 生活相



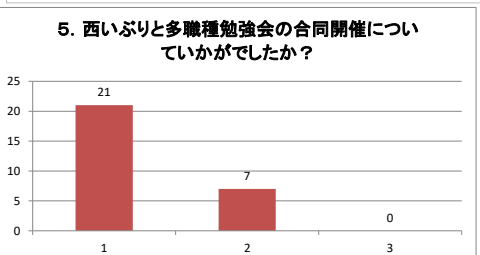
①. 病院・施設・事業所の広報ポスター ②. 知人・友人 ③. 職場 ④. 所属している職能団体からの連絡 ⑤. その他



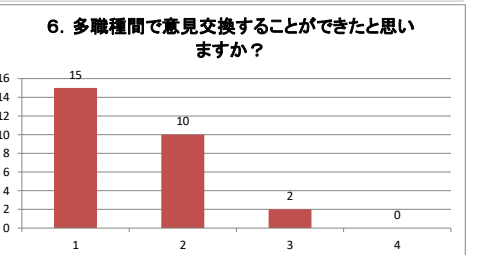
①. 室蘭市 ②. 登別市 ③. 伊達市 ④. 洞爺湖町 ⑤. 杜管町



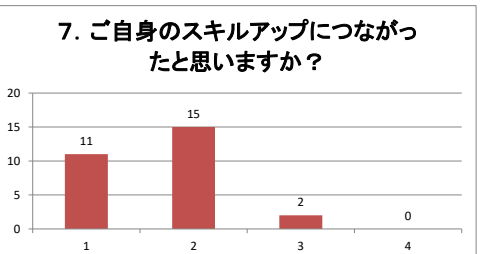
①. とても満足 ②. 満足 ③. やや不満 ④. とても不満



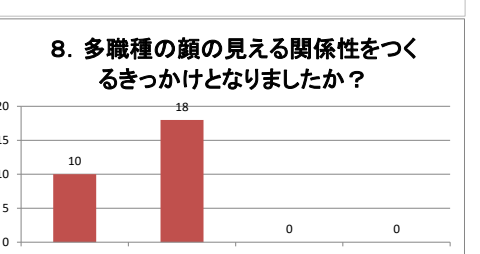
①. よかった ②. ふつう ③. あまりよくなかった



①. とても思う ②. 思う ③. あまり思わない ④. 思わない



①. とても思う ②. 思う ③. あまり思わない ④. 思わない



①. とてもなった ②. なった ③. あまりならなかった ④. ならなかった

8その他感想やご意見など

・知らない顔ぶれが多かったので、他のグループの方とも交流できたと感じました。

・参加は自由参加ではなく事前申し込みの方がもっとたくさんの人が集まったと思う。介護の世界には「これは関係ある」「これは関係ない」という事は無いのでこれからも介護についていろいろやって下さい。

・寒い中駐車場誘導ありがとうございました。ジレがあるとわかりやすいと思い又、家族の方の話に心に染みました。介護支援は何が使えるのか？何が必要なのか？誰に相談したら良いのか？知識が無い私は大変勉強になりました。

・利用者家族にCMの対応やサービス調整はすばらしいと思いました。奥様の不在、就労の空いた時間に対応できるサービスがあり、ヘルパーの人材が増えると思う(ヘルパー不足、サブス不足)伊達市・担当ケアマネの訪問多数回で在宅生活が出来るのかも知れませんが、本来のケアマネとして、このようなケースが多数合った場合ケアマネはその全てに対して訪問するのか？ケアマネとしてサービス調整以外の訪問に疑問を感じる(熱心なのは理解出来るが...)このケースは包括ケア会議などの検討は考えられなかったのか？

8その他感想やご意見など

・介護をしているご家族自身がこのような場でお話して下さること自体が嬉しく感じました。よくお話し下さる気持ちになって話をまとめて準備するのも大変だったかと思います。有難うございました。
・とても良い勉強会でした。

・事例報告内容に具体的なものが欲しかった、全体像が見えずわかりづらい部分があった。奥様が言っていた「自己満足かもしれない。」とおっしゃってましたが、それでも公開しない介護をしていただければいいなと思いました。

・吉田CMによる支援、サービス調整家族様の姿勢・他地域の方(伊達市以外)の貴重な意見が聞けて良かった事例に沿っていた為とてもわかりやすかったです。

・様々な職種が連携を図り、自分たち(専門職)がこちらの方に対してどんな支援をしていけるかということをご家族と協力体制をしっかりと結びながらその人らしい日常を送っていただける大切さを学びました。

【担当幹事】 篠原 歩

【共催】 第3回伊達市多職種勉強会

【今回の流れ】

夜勤のある仕事をしている妻が、夫が退院して在宅復帰を模索する中で、自分たちと同じような状況で在宅復帰したケースがないかどうか探したが、どこにも見つける事が出来ず、多くの人からも在宅復帰は無理と言われた。しかし、思案の末、脳出血後遺症で寝たきりの夫を在宅介護する道を選択した。在宅復帰する前と後の妻の思いの変遷（迷い、不安、葛藤、やってみてわかったこと）や在宅生活をする上での心構え、介護の工夫などについて妻自身から話を伺った。また、担当ケアマネには、支援の実際や苦労したこと、感じたこと、今後の課題などについて話を伺いグループワークを行うことで、通常は在宅復帰が困難と思われがちな事例が、環境を整えることで在宅復帰が可能となることを共有しました。

【タイムライン】

18：30～ 開会あいさつ及び勉強会目的（岡本先生より）

18：35～ 事例報告①

有限会社ファニティ 居宅介護支援事業所ともあれ

介護支援専門員 吉田 智彦 氏

「介護力の不足と不安を乗り越えて在宅復帰を実現したケース」

事例報告②

患者様のご家族（奥様）

19：10～ グループワーク

19：35～ 発表

19：55～ まとめのコメント（岡本先生より）

20：00 閉会

【参加者からの声】

・知らない顔ぶれが多かったのですが、他のグループの方とも交流できたと思います。

・参加は自由参加ではなく事前申し込みの方がもっとたくさんの人が集まった

と思う。介護の世界には「これは関係ある」「これは関係ない」という事は無いのでこれからも介護についていろいろやって下さい。

- ・寒い中駐車場誘導ありがとうございました。レジメがあるとわかりやすいと思い又、家族の方の話に心に染みました。介護支援は何が使えるのか??何が必要なのか??誰に相談したら良いのか?知識が無い私は大変勉強になりました。

- ・利用者家族にCMの対応やサービス調整は素晴らしいと思いました。奥様の不在、就労の空いた時間に対応できるサービスがあり、ヘルパーの人材が増えると良いと思います(ヘルパー不足、サービス不足)。伊達市・担当ケアマネの訪問多数回で在宅生活が出来ているのかも知れませんが、本来のケアマネとして、このようなケースが多数合った場合ケアマネはその全てに対して訪問するのか?ケアマネとしてサービス調整以外の訪問に疑問を感じる(熱心なのは理解出来るが・・・)このケースは包括ケア会議などの検討は考えられなかったのか?

- ・いつもありがとうございます。とても貴重なお話を聞くことができ、ケアマネさん、奥様に感謝します。

- ・介護をしているご家族自身がこのような場でお話しして下さること自体が珍しく感じました。よくお話しして下さる気持ちになって話をまとめて準備するのも大変だったかと思います。有難うございました。

- ・とても良い勉強会でした。

- ・事例報告内容に具体的なものが欲しかった、全体像が見えずわかりづらい部分があった。奥様が言っていた「自己満足かもしれない。」とおっしゃっていましたが、それでも公開しない介護をしていただければいいなと思いました。

- ・CMによる支援、サービス調整、家族様の姿勢・他地域の方(伊達市以外)の貴重な意見が聞けて良かった。事例に沿っていた為とてもわかりやすかったです。

- ・様々な職種が連携を図り、自分たち(専門職)がこの方に対してどんな支援をしていけるかということをご家族と協力体制をしっかりと結びながらその人らしい日常を送っていける大切さを学びました。

- ・難しかったがわかりやすく説明して下さい、意見交換も出来て良かったです。

【報告者からのまとめ】

企画から当日の会場準備等、ほぼ伊達市多職種勉強会の事務局の方をお願いする形となり問題なくスムーズに開催出来たが、会場が初めての黄金地区開催からか、前回と異なり参加者が少なかった。しかし、上記アンケート結果からも非常に好評をいただけたこともあり、かつ広域での伊達での事例検討では、初めてお会いしその地域の実情について学ぶことも出来るので、今後も継続して開催していきたい。

西いぶり 在宅ケアフェスティバル



(企画趣旨)

私たちは学びながら地域の在宅ケアを推進してゆくことを目的とした団体です。
この度、在宅ケアについて一般市民の皆様幅広く知って頂く機会として『楽しみながら』『誰でも』『気軽に参加できる』内容でのフェスティバルを企画しました。
皆さんとともに知識を学び、理解を広めたいと考えております。

どうぞお気軽にご参加ください！

日 時

平成30年11月10日(土)

10:00~15:00

場 所

MORUE 中島 A 棟

北側入口メイン通路内

住所：室蘭市中島本町 1-4-4

問い合わせ

西いぶり在宅ケア連絡会事務局

本輪西ファミリークリニック（担当：篠原・古里）

〒050-0065 室蘭市本輪西町3丁目36-9

☎ 0143-55-1212

イベントブース紹介（参加無料）

1. いつまでも健康でいたい！

健康チェックブース

医師・看護師・薬剤師により
健康チェックが受けられます！

2. いつまでもおいしく食べる！

食事とお口の健康チェックブース

介護食の試食や飲み込み、
お口の衛生について考えてみませんか。

3. からだが資本！健康増進ブース

体力測定、生活補助具、
かんたん物忘れ検査をご紹介します！

4. 困ったらまずは相談！

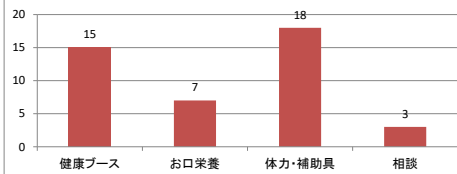
医療福祉・介護相談ブース

ソーシャルワーカー・ケアマネジャーが
相談対応いたします。

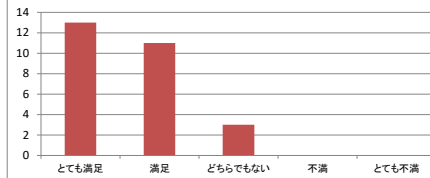
<協力団体>

室蘭市医師会、胆振西部医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西いぶり訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、北海道社会福祉士会日胆地区支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、室蘭市地域包括支援センター、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケア連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部

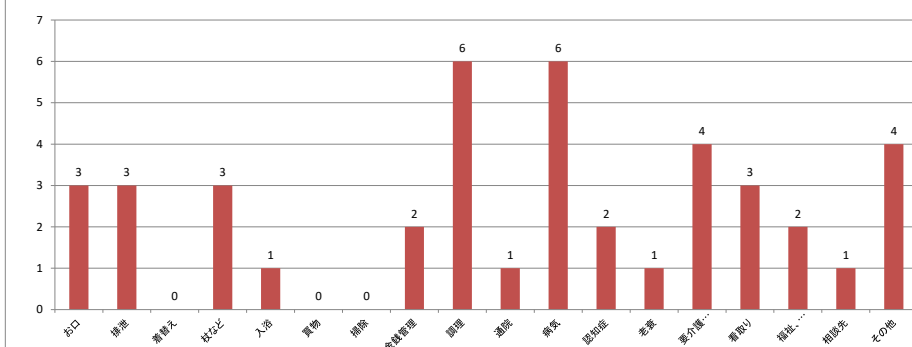
①本日、体験したブースはどこですか？



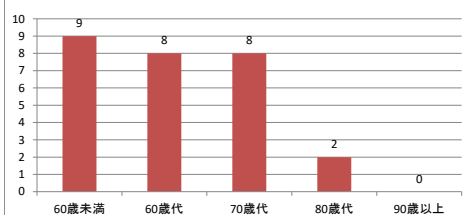
②体験したブースはいかがでしたか？



③在宅ケアについて、知りたいテーマは何ですか？



④あなたの年代を教えてください。



5. 最後に何かご意見、ご感想などありましたらお願い致します。

・入院中の母について、どのような状態までリハビリが進みどのタイミングで自宅にか帰せるのか。それとも無理なのかと漠然とした悩みの中にありましたが具体的なアドバイスを頂け希望が見えました。最後まで出来るだけ普通食をいただき家庭の中で過ごさせてあげたいという思いを実現でき、母にとっても私にとっても良かったと思える最期を迎えたいです。そのために様々な人と物、制度があることを心強く思いました。

・とてもいいねいにせつめいしてもらいました。ありがとうございます。

・また来年も期待しています。

・腰痛だけの悩み

・相談できて良かったです。頼りになります。

・サ高住などに入りたいのですが(夫婦で)予算(月の月収)が少ないので困っています。

第63回 西いぶり在宅ケア連絡会

テーマ 困った事例の対処法～在宅支援の現場から～
小規模多機能居宅介護からの事例

日時:1月21日(月) 18:30～20:30

受付:18:00～ (事前申込不要 当日参加OK!)

会場:むろらん広域センタービル3階 AB会議室

室蘭市海岸町1丁目4番1号

参加費: 500円 (定員を80名までとさせていただきます)

<内 容>

- 18:30～18:40 開会・参加者自己紹介
- 18:40～19:00 今回の事例紹介
- 19:00～19:20 グループワーク①
- 19:20～19:40 グループワーク②
- 19:40～20:00 グループワーク③
- 20:00～20:20 まとめ
- 20:20～20:30 アンケート記入
- 20:30 閉会(次回の告知)

 西いぶり在宅ケア連絡会



今月のポイント!

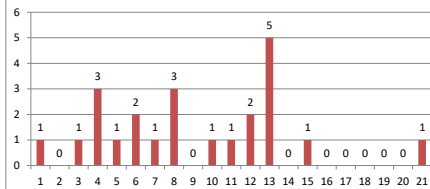
それぞれ生活スタイルは違うものですが、現行の居宅介護支援では制度上様々な制約があり、色々工夫をし、サービスをたくさん導入しても、課題が解決しないことがあるのではないのでしょうか・・・サービスとサービスの隙間を埋める事ができずに、その人の生活の課題に支援が届かず、専門職として悩むこともあると思います。今回は、起床時間がまちまちで、食事の時間や1日の過ごし方が日によって違うため、毎日の支援の時間がバラバラになってしまう。内服確認も1日複数回、デイサービスの利用も難しい人への

支援について、みなさんとグループワークを通じて考えてみたいと思います。

【後援団体】

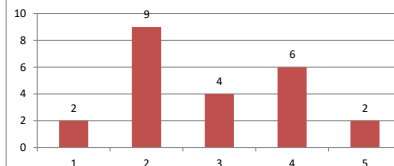
室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西いぶり訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会 (室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会)、北海道介護福祉士会日胆支部、北海道社会福祉士会日胆地区支部

1. 所属等 職種



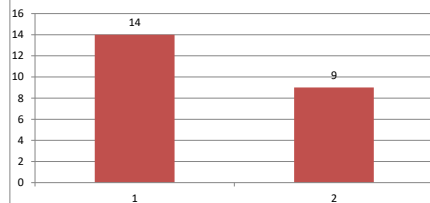
①. 医師 ②. 歯科医師 ③. 保健師 ④. 看護師 ⑤. ケアマネジャー ⑥. 社会福祉士 ⑦. 栄養士 ⑧. PT ⑨. OT ⑩. ST ⑪. MSW ⑫. PSW ⑬. 薬剤師 ⑭. 歯科衛生士 ⑮. 介護福祉士 ⑯. ヘルパー ⑰. 生活相談員 ⑱. 柔道整復師 ⑲. 福祉用具相談員 ⑳. 医事関係者 ㉑. その他

年齢



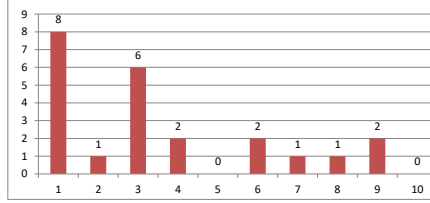
①. 20代 ②. 30代 ③. 40代 ④. 50代 ⑤. 60代以上

性別



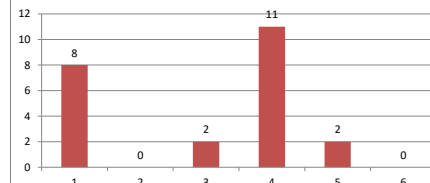
①男性 ②女性

所属機関を教えてください



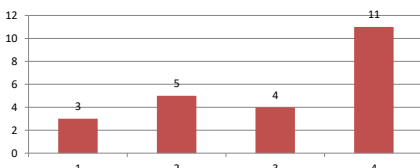
①病院 ②診療所 ③薬局 ④行政 ⑤施設 ⑥包括支援センター ⑦居宅介護支援事業所 ⑧通所系サービス ⑨訪問系サービス ⑩その他()

3. 立場(役職)



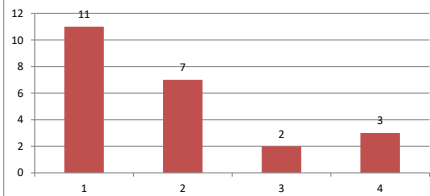
①. 管理者・施設長 ②. 部門長 ③. 課長 ④. 一般職員 ⑤. 契約社員(パート) ⑥. その他()

4. 職種経験年数①. 0～5年 ②6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上



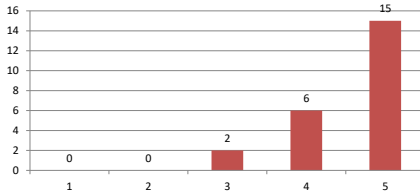
①. 0～5年 ②6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上

5. 職場経験年数



①. 0～5年 ②6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上

6. 今回の定例会について



③悪い ④. 良い

7. その他感想やご意見など

・小多機が地域に必要なサービスだと思いました。

・小多機について理解できた。・率直に自分はずっと働いてきたので、高齢になったら指示されてデイに行く、訪問に来られる、自分なら拒否する困難ケースと呼ばれるおばあちゃんになるでしょう。でも小多機さんなら、夏は甲子園、オリンピック観戦、やりたいイベントにも協力してくれるなど永井を叶えてくれそうです。よそでは「変わったおばあちゃん」を個性を生かした「すてきなおばあちゃん」にさせてくれる気がします。

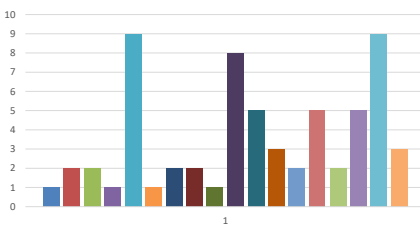
・改めて、小多機の機能。役割を確認できました。

・小多機はそれぞれのCMが変わってしまうので、変更後のフィードバックが欲しいんだと思う。

・小規模多機能型居宅介護について具体的なイメージを持てずにいたので、とても理解できました。今後の在宅支援の一つの選択肢として考えていきたいと思います。

・寄り添うということの実践を聞くことが出来て非常にためになりました。利用

テーマ別アンケート



【病院と在宅の連携】

- ①病院を退院する際、ケアマネが最低限必要な情報を知りたい
- ②病院を退院する際、退院日が決まっていなくても、話が出た段階で教えて欲しい
- ③連携とは、自分の持ち場をしっかりと行い、バトンタッチすることだと思う
- ④後はケアマネに相談するという医師が、家を出て直接電話をくれたらいいのに
- ⑤病棟の医師や看護師が、高齢者の生活をイメージして支援してくれたらいいな

【在宅療養サービス】

- ⑥サービス開始時にリハビリ終了の目安が、具体的に利用者さんへ伝えられたら
- ⑦ケアマネから、xxだったら何とか在宅療養が可能かも、と提案があったらいいな
- ⑧サービス事業者からの報告が～なのでしたら良いでしようと言われるが、～なので検討した結果、こういう対応をしましたと言われると良いな
- ⑨服薬確認のみ、ゴミ出しのみ等のサービスがあればいいな
- ⑩多職種連携という点で、情報が提供者側からの都合が良い内容になっていることが多くあり、正確に相手側に伝える重要性が希薄化しているように感じる
- ⑪訪問看護師、ケアマネなどが、薬局へ在宅管理の依頼をしてもらえたら

【障がい】

- ⑫障害福祉領域のサービス(就労支援A,B移行)が、身近に感じられるように施設見学・作業所紹介・意見交換の場があればいいな
- ⑬若年脳血管障害の患者さんが、心身のサポートを受けながら、個々のレベルに応じた復職・再就職ができる環境があればいいのにな

【地域づくり・その他】

- ⑭認知症の方が、地域で活躍できる場がもっとあればいいな
- ⑮認知症の方が、本人が役に立っていると思えばいいなに参加できるようになってほしい、お世話されるのは嫌、お世話したいと思っている人が多い
- ⑯住民が疾患を理解してくれたらな(精神疾患があると不動産を貸してれない)
- ⑰一般の人が元気なうちから専門職と気軽に意見交換できる場があるといいな

【担当幹事】 高嶋 活哉

【今回の目的】

困った事例の対処法～在宅支援の現場から～
小規模多機能型居宅介護からの事例

現行の居宅介護支援では制度上様々な制約があり、工夫をしながら多くのサービスを導入しても、課題が解決しないことがある。

なぜ、現行のサービスでは課題を解決することができないのか、またはできなかったのかを小規模多機能型居宅介護の事例を通じ考える。

【定例会の Take Home Message】

生活支援とは、生活の中にある課題に対し、隙間なく連続性を持たせた支援が必要ではないか。小規模多機能型居宅介護では、サービス利用で関わっていない時も、生活状況を把握し、24時間を支援しているという視点で関わっている。

その視点を小規模多機能型居宅介護の事例からヒントを得る。

小規模多機能型居宅介護の特徴や役割を理解する。

【タイムライン】

- 18：30～ 開会・参加者自己紹介
- 18：40～ 事例紹介
- 19：00～ グループワーク①
- 19：20～ グループワーク②
- 19：40～ グループワーク③
- 20：00～ まとめ
- 20：20～ アンケート記入
- 20：30 閉会（次回予告）

【報告者からのまとめ】

9月に予定した定例会を1月に開催した。

天候、インフルエンザ流行の影響？で参加人数が見込みほど集まらなかった。

事例の課題抽出→支援策→まとめ

と進めたが、会場からの質問もあり、その質問に答える形で「まとめ」を行った。

「まとめ」の部分が、まとまっていたのか不安は残るが、参加者には一定の理解は得られたのではないかと思っている。

課題抽出に関しては、各グループでそれぞれ抽出できていたように考える。

支援策についても、制度や立場にとらわれず、事例の方の生活課題を解決するために必要な支援策の意見が出されていた。

小規模多機能型居宅介護では会場からの「通常では出来ないかも・・・」といった支援が出来る事業であるし、実践することが目的の事業所であり、それが大きな特徴であることが参加者には届いたのではないだろうか。

また、その特徴を理解せず、利用者をただ単に小規模多機能型居宅介護に安易に“定額”だからとか“便利”だからと紹介してくるケアマネも存在することも話すことができた。

会場からの質問では、小規模多機能型居宅介護の運営や経営について出され、理想と現実の部分も伝えることができた。

事例を通じ、不可能と思われる人への支援を紹介しながら、小規模多機能型居宅介護の目的や特徴を具体的に伝えることができたことは意義があったと考えている。



西いぶり在宅ケア連絡会 定例会

テーマ

葛藤？～病院側と在宅側のはざままで～

企画：西いぶり在宅ケア連絡会ケア連レビュー班

もっと〇〇だったら
いいのになあ～



連携って
難しいなあ～

今月のポイント！

今年度1年間在宅ケア連絡会では、連携の場面で発生する「葛藤」についてみなさんからのご意見を伺ってきました。その中から「病院と在宅の間の葛藤」というテーマを取り上げたいと思っております。皆さんの抱いている葛藤を多職種の意見交換で多角的に向き合い、より良い連携に結びつけられるヒントをつかんで頂くことを目指した企画です。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

日時：3月11日(月) 18:30～20:30(受付18:00～)

会場：むろらん広域センタービル3階 AB会議室

室蘭市海岸町1丁目4番1号

内容：①「病院と在宅連携の葛藤」

②「病院サイドの葛藤」伊達赤十字病院 那須看護師長
日鋼記念病院 山本MSW

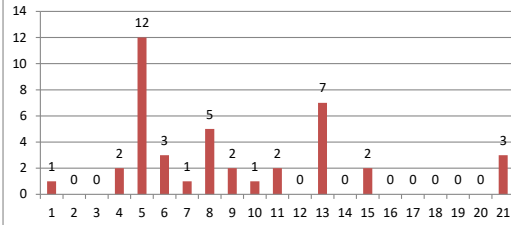
③「グループワーク」

参加費：500円（事前申込不要 当日参加OK！）

【後援団体】

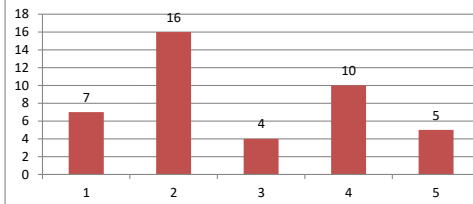
室蘭市医師会、胆振西部医師会、室蘭歯科医師会、北海道看護協会室蘭支部、北海道薬剤師会室蘭支部、西いぶり訪問看護者連絡会、北海道栄養士会室蘭支部、北海道歯科衛生士会室蘭支部、室蘭市地域包括支援センター、北海道医療ソーシャルワーカー協会日胆支部、室蘭・登別訪問リハビリテーション連絡会、登別市地域包括支援センター、のぼりべつケアマネ連絡会、伊達市地域包括支援センター、伊達市介護支援専門員連絡会、室蘭市介護保険サービス事業所連絡協議会（室蘭市居宅介護支援事業所専門部会、居宅介護サービス事業所専門部会）、北海道介護福祉士会日胆支部、北海道社会福祉士会日胆地区支部

1. 所属等 職種



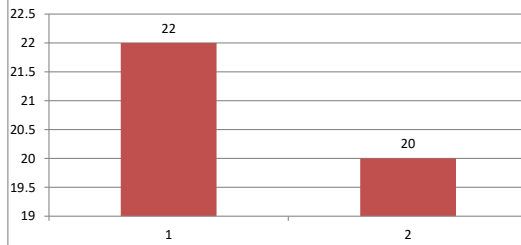
①. 医師 ②. 歯科医師 ③. 保健師 ④. 看護師 ⑤. ケアマネジャー ⑥. 社会福祉士 ⑦. 栄養士 ⑧. PT ⑨. OT ⑩. ST ⑪. MSW ⑫. PSW ⑬. 薬剤師 ⑭. 歯科衛生士 ⑮. 介護福祉士 ⑯. ヘルパー ⑰. 生活相

年齢



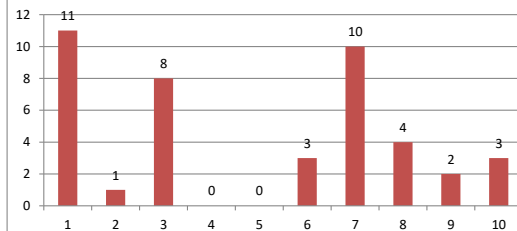
①. 20代 ②. 30代 ③. 40代 ④. 50代 ⑤. 60代以上

性別



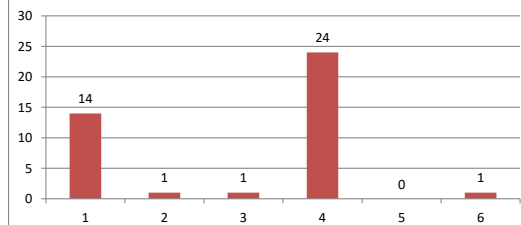
①. 男性 ②. 女性

所属機関を教えてください



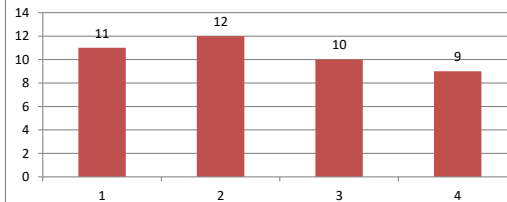
①. 病院 ②. 診療所 ③. 薬局 ④. 行政 ⑤. 施設 ⑥. 包括支援センター ⑦. 居宅介護支援事業所 ⑧. 通所系サービス ⑨. 訪問系サービス ⑩. その他()

3. 立場(役職)



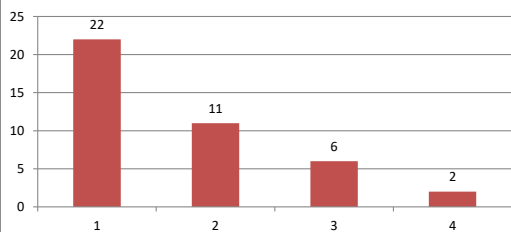
①. 管理者・施設長 ②. 部門長 ③. 課長 ④. 一般職員 ⑤. 契約

4. 職種経験年数①. 0～5年 ②. 6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上



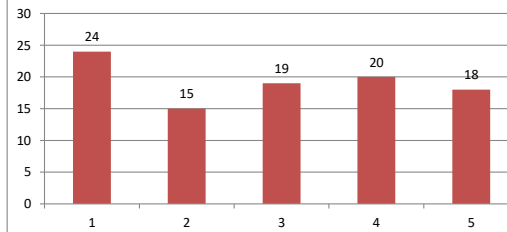
①. 0～5年 ②. 6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上

5. 職場経験年数



①. 0～5年 ②. 6～10年 ③. 11～15年 ④. 16年以上

6. 都合の良い曜日は？



①. 月曜日 ②. 火曜日 ③. 水曜日 ④. 木曜日 ⑤. 金曜日

7. その他感想やご意見など

- ・また少しそれぞれの立場の考えに触られました。よい経験でした。
- ・医療関係者さんの話を聞けて、勉強になりました。
- ・いろいろな葛藤が聞くことができて勉強になりました。
- ・何らかの形でまた葛藤のテーマを上げて欲しいです。
- ・色々な機関の方とお話したいと思うので、1テーブルに1機関or1職種の方がありがたいと思いました。
- ・活発な討議、元気をもらいました。
- ・病院サイドの話は勉強になりました。ありがとうございました。
- ・多職種の方と、情報交換できて勉強になりました。

- ・お疲れ様でした。
- ・互いの発表とてもわかりやすい。ある程度立場が理解できました。
- ・リハビリの人が多く参加していたので、リハビリの話を聞いてみたい。

【タイトル】 葛藤？病院側と在宅側のはざままで

【担当幹事】 レビュー班（内池、鎌田、釣賀、森戸、山下、佐藤）

【今回の目的】

“病院と在宅の間の葛藤”を取り上げ、病院とのより良い連携に悩んだり、自分なりに工夫していることを共有、また病院側の具体的な事情も知り、本当にそれは葛藤なのか？改めて考える機会としたい。

＊レビュー班として、１年間通じて葛藤に関するアンケート調査をしてきた結果のニーズから“病院と在宅の間の葛藤”について取り上げた。

【タイムライン】

18:30-18:45 開会、自己紹介

18:45-18:50 本企画の趣旨説明

18:50-18:55 病院と在宅の葛藤アルアルの紹介

18:55-19:10 グループ討議 1

19:10-19:40 病院サイドの葛藤

（伊達赤十字病院 那須看護師長、日鋼記念病院 山本 MSW より）

19:40-20:00 グループ討議 2

20:00-20:20 全体共有

20:20-20:30 アンケート記入、閉会

【参加者からの声】

<病院在宅が連携するための提言>

- ・ケアマネと医療機関との間にはまだ、壁がある。
- ・在宅側、病院側とそれぞれのことがわかれば、もう少しスムーズに連携できるのではないかな。
- ・相手の立場を思いやり、コミュニケーションをとることが大事。
- ・各担当者のサービスの内容、範囲がわからなくどこまで介入して良いのか、どこまで依頼して良いのか、各々の仕事の理解度が低いことが葛藤の要因の１つだと感じました。理解度が深まると情報共有がしやすくなると思いました。
- ・伝えたいことを言語化する訓練。
- ・自分の方からも積極的に情報を得るということ。

- ・病院の窓口になる人は、もっとこのような場に出てきて欲しい。
- ・小さな病院やクリニックでは SW がおらず、連絡がしづらい。
- ・名刺交換会に、MSW や退院調整 Ns がきて、顔の見える関係づくりをしてもらいたい。
- ・医療と介護の制度の違いをもっと open にする。
- ・医師のケアマネに対する、理解が弱い。

<感想>

- ・それぞれの立場の考えに触れられた良い経験でした。
- ・普段関わりがない職種の方と話ができる。
- ・在宅の方が求めるもの、知りたいことを聞くことができ良かったです。
- ・色々な葛藤を聞くことができ、勉強になりました。
- ・何らかの形で、また葛藤のテーマを取り上げて欲しいです。
- ・1つのテーブルに1機関、1職種にしてもらいたい。
- ・患者のためということで職種や機関問わずに、どう連携できるかがポイント。
- ・病院内にも葛藤があることはわかった。

<今後希望するテーマ>

- ・多職種連携
- ・薬について（与薬）病院の薬剤師と薬局の薬剤師の連携はどうか。
薬剤師の成功事例を聞きたい(CM より)

【報告者からのまとめ】

病院スタッフは在宅側の、在宅スタッフは病院側の事情が知れて、勉強になったという感想が多く、当初の目的は達成されたと考えた。またレビュー班のこのような活動についても概ね賛成の意見が多かった。

今後の課題として、各テーブルごとに先着順に座ってもらい所属がバラバラになるように座る等の工夫や、XX の事情というテーマで多職種の相互理解を深める仕掛け、情報伝達や伝え方のスキルアップ、などがニーズとして抽出された。

（文責：佐藤 弘太郎）